

# 収支管理を日々実施することで 利益改善につなげましょう

収支管理は、利益を創出するための重要な手法であり欠かすことはできません。ただ、いくつかの企業からは「収支管理は請求書を発行する月末に行い、月毎に黒字か赤字かを管理している」という声を聞きます。

本来、収支管理は日々行うものです。理由は、赤字となっている運行が見える化でき、即時に対策ができるからです。また、対策の効果もすぐに見え、配車のモチベーションを向上させる促進剤にもなります。そこで今回は、日々収支管理を行う上でどのような手法で進めれば良いのか、下記に示した主な流れを船井総研ロジ株式会社の鈴木敦大氏に解説してもらいます。

## 収支管理で効果を発揮する取り組み手法



上記の①～⑫の順に落とし込んでいくことが、収支管理を行う上で最大の効果を発揮します。落とし込み方としては、まず①②の算出・試算後、配車担当者に配車内容に問題はないかを確認します(③)。ここで改善の余地があれば、配車内容を新たに組み立てる必要があります(④)。次にドライバーの拘束時間の内訳を数値化し(⑤)、荷役時間・手待ち時間が想定以上にかかっているかを追求します(⑥)。この原因がドライバー自身の問題であれば一緒になって改善策を立案し、PDCAサイクルを回していきます(⑦⑧)。一方、荷主企業に原因があれば改善の打診をしてみてください(⑨)。最後に薄利となっている荷主企業を洗い出し(⑩)、値上げ交渉(⑪)や新規案件の営業活動を行い(⑫)、赤字運行を無くす努力を行ってください。

以上が収支管理における注意点となります。日々収支管理を行う習性を身に付け、収支管理の手法を自社内で構築し、利益向上に努めてください。